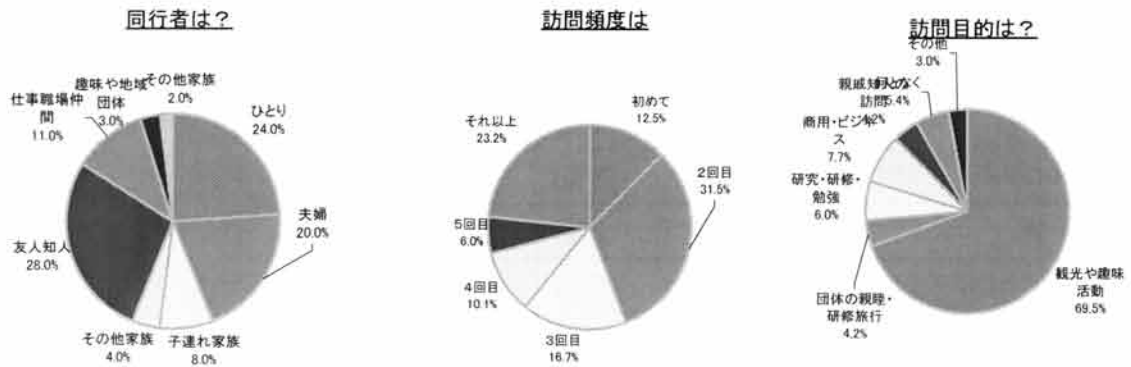


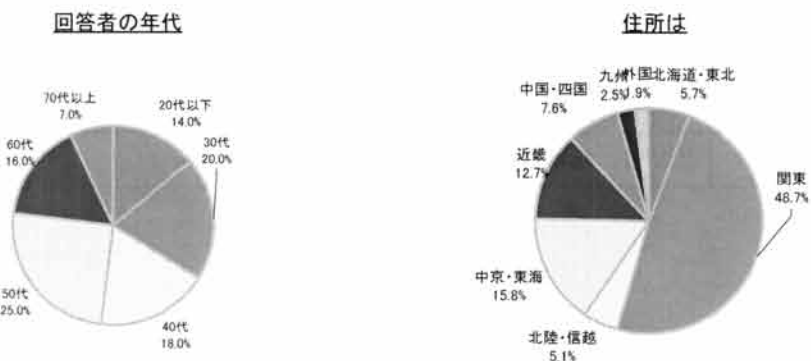
第2章 来街宿泊者に見るみやげ品購入の実態

1. 観光宿泊客の実態



今回調査した宿泊客から、奈良の観光客の実態を明らかにすると下記のとおりである。

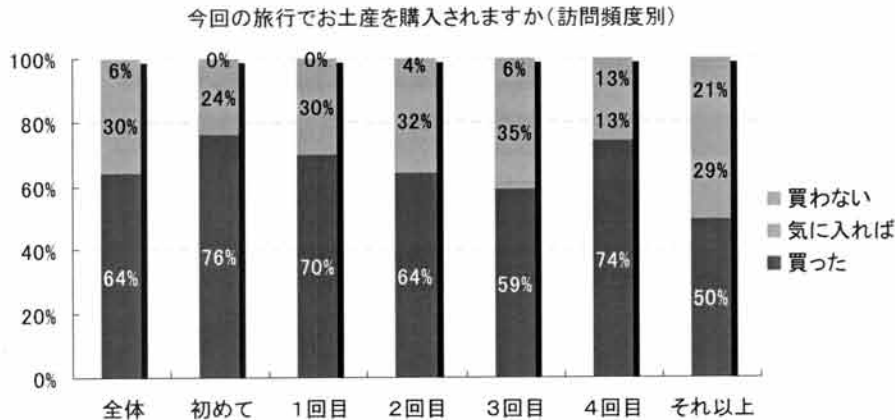
- ① 訪問の同行者は、友人・知人がトップ（28%）で、次いで夫婦、ひとりとなり、団体客は3%に過ぎず、個人客中心が裏づけられた。
- ② 訪問頻度は、2回目が最も多く31%、そして6回目以上23%となり、初めては12%に過ぎず改めて、奈良ファンを中心とするリピーター客中心であることがわかった。
- ③ 奈良来訪の目的は、観光・趣味活動で70%を占め、いわゆる観光客が2/3を占め、その他では商用ビジネス、研究・研修、団体の親睦などが10%未満で続いている。やはりビジネス客などの不足が目立っている。
- ④ これらの観光客の年代構成は、やや中高年に特化しており、50代が最も多く1/4を占め、次いで30代20%、40代が19%と続いている。
- ⑤ 観光客の住所では、関東圏からの来客が圧倒的に多く49%（関東1都6県）、次いで中京圏13%（愛知、岐阜、静岡、三重）、となり、この圏域で約2/3を占めている。



2. みやげ品に対する全般的の動向

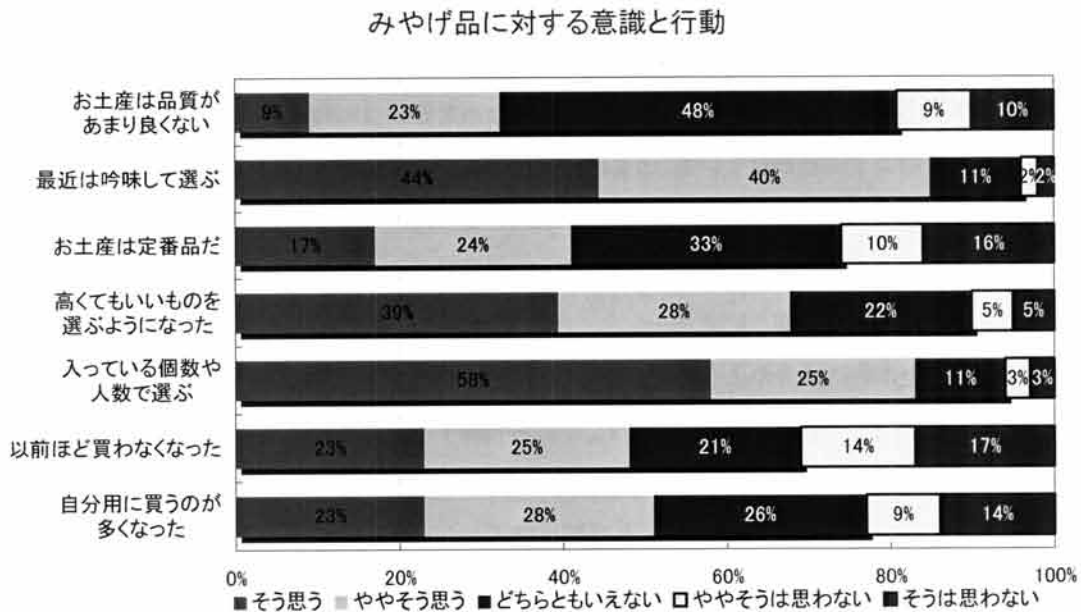
(1) みやげ品の購入に対して

今回の旅行でみやげ品を購入または予定している割合は64%で、気に入ったものがあれば購入する30%を加えると実に94%の人が購入の意思があることとなった。リピーターの多い奈良であるので、訪問回数別に見るとそれほど大きな違いがないが、リピーターほどみやげ品の選別に厳しくなっていることとなった。

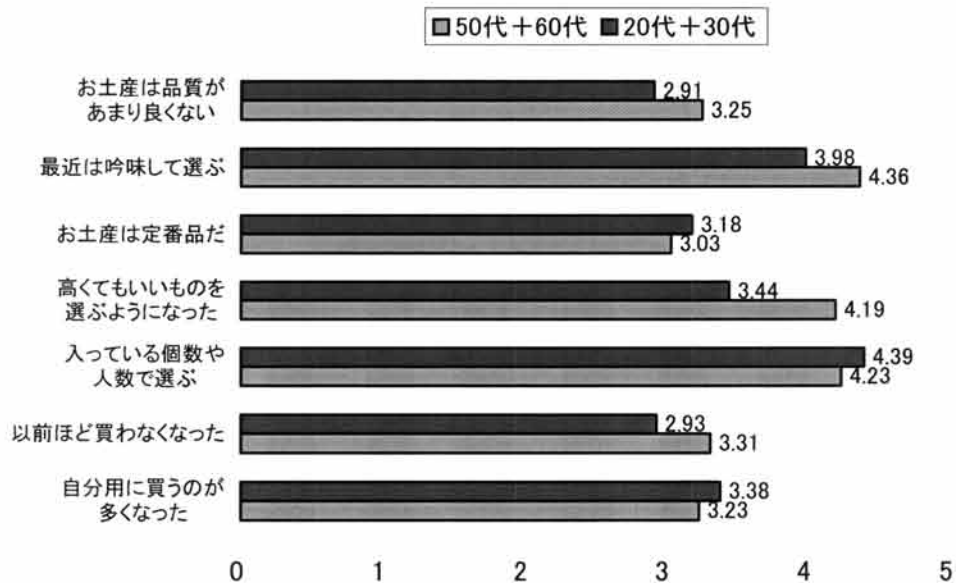


(2) みやげ品に対する意識と行動

みやげ品に対する最近の意識と行動についてその考え方を聞いたのが下図である。また、若年世代と高年世代についてもその考えを比較してみた(そう思う5点、ややそう思う4点、どちらともいえない3点・・・として評価)。以下、項目別に特徴的なことを記述してみる。



みやげ品の意識と行動(年代別)



(品質は) みやげ品の品質については、高年代の人が品質があまり良くないと思っているが若年代はそれほど意識していない。全体としてはどちらともいえないという評価。

(吟味は) 以前より吟味してみやげ品を選んでいる。ここでも量より質の購買動向がうかがわれる。安かろう悪かろうのみやげ品は過去のイメージとなっている。

(定番品) 奈良といえば「奈良漬け」という定番品へのこだわりは、肯定する人の割合が高くなった。これらは後で述べる地域らしさと関連するものであり、行った先をイメージするモノを選びたいという心理の表れともいえる。年代別には意識の違いは無い。

(価格面) 少々高くても良いものを選ぶようになったというのは、先ほどの品質とも関連してそのように思われている。とくに高年代の人の意識が強く、最も差の出た項目となった。

(個数等) 渡す相手の人数などを考慮して購入するため、みやげ品の個数が商品選定の基準に83%の人がなっていると回答している。核家族や単身世帯の増加がみやげ品の内容を決める重要な要素といえる。

(購入量) 全体的には昔のように買わなくなったと回答しているが、そうではないという人も31%あり、均衡している。このことから判断するとみやげ品はまだ根強い支持を受けており、購入機会が多いと推測される。

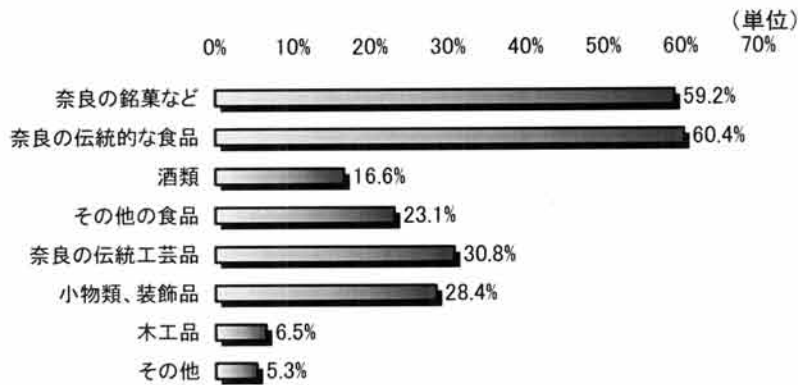
(自分用) まったく均衡しており、自分用に買うことが増えてきた人とそうではない層に二つに分かれた。年代的にもそれほど差がないがやや、若い人に自分用が多くなっている。

3. 奈良のみやげ品の購入状況

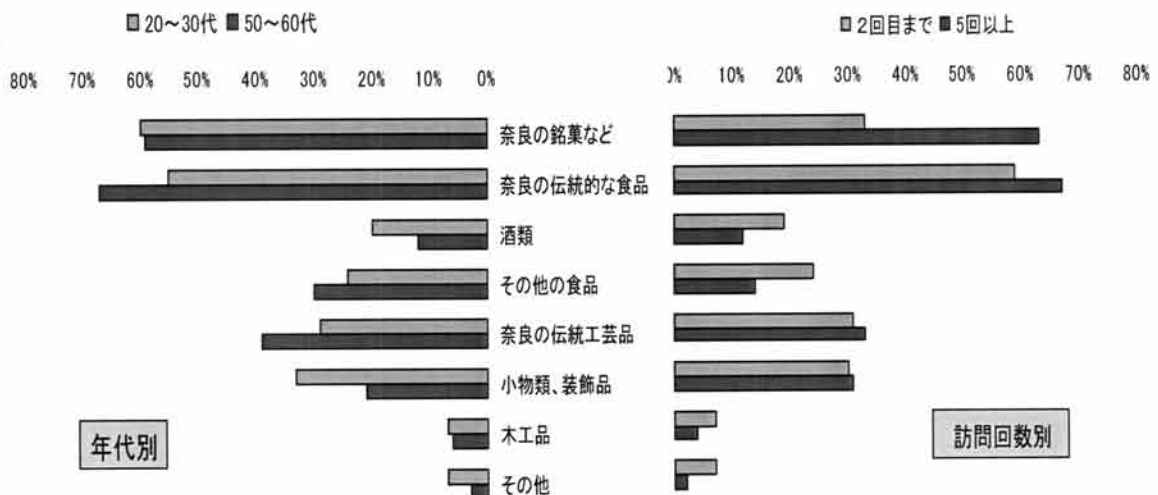
奈良のみやげ品でもし購入するとしたらどんな商品が良いか尋ねた結果が下図である。これらの結果から現在の奈良みやげ品の状況を概観してみよう。

- ① 購入率の高いのは、奈良漬けなどの伝統的な食品、次いで差がなく奈良の銘菓が二極を形成し、大きく差が開いて伝統工芸品、小物類・装飾品となっている。
- ② やはり食品が圧倒的な人気を博しており、その中では銘菓が人気強く、奈良漬けや三輪そうめん、吉野葛などの伝統的食品と銘酒も人気がある。
- ③ 年代別の傾向は、顕著な違いは見られないが、若年代は酒類、小物類・装飾品にやや興味を持っており、高世代は、伝統的食品が強く、伝統工芸品などにも支持が広がっている

奈良のおみやげ品で購入に興味ある商品は

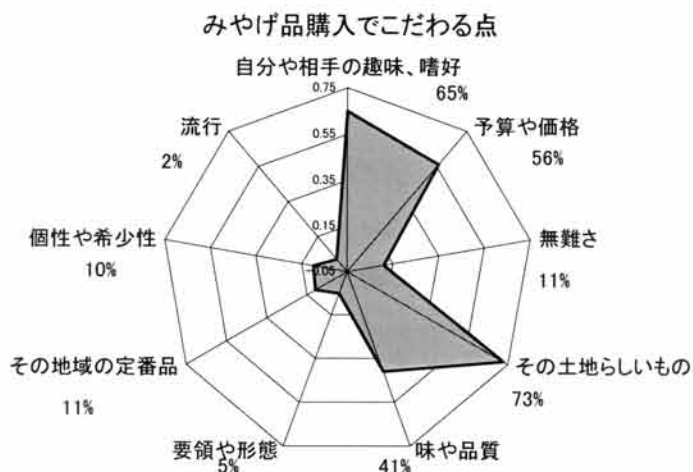


- ④ 訪問回数別には、訪問回数が少ないほど広く興味を持っており、とくに奈良の銘菓はリピーターからの支持が高い。



4. みやげ品の購入でこだわる点は

こだわり度のベスト3は、①位「その土地らしいもの（地域性）」、②位「自分や相手の趣味・嗜好」、③位が「予算や価格」となった。次に「味や品質」が入り、あとは比率的には少ない。つまりみやげ品の選択は、まずその土地らしさのある地域性を考慮して商品を選定し、次に送り先の趣味や嗜好度（ここには相手の構成数などの人数要件も入る）を考えて、そして最後に価格評価を得て購入されるということになる。



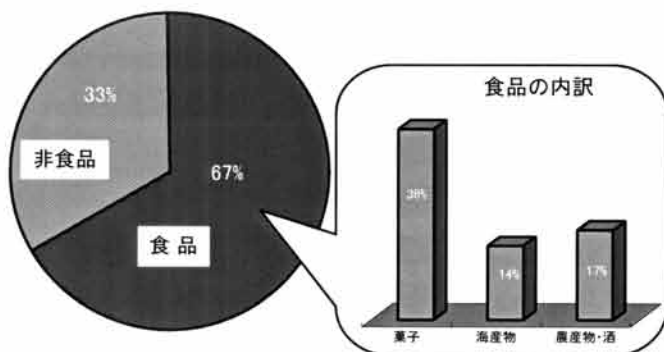
なお、年代別には、差は余りないが若年世代ほど「地域性」にこだわっている。また、若年世代ほど価格指向性が高く、高世代は価格に対する意識は低い。

5. これまでのみやげ品で心に残ったものは？

国内のみやげ品について、自分で買ったもの、他人からいただいたもので、これまで最も心に残った品物について、商品名やその理由について聴いた結果が下記のとおりとなった。なお、回答者 169 名中、106 名の方より本回答を受けた。

1 食品が 67% を占め、菓子が断然トップ

心に残ったみやげ品の種類



具体的な商品名を記入していただきそれらの商品ごとに分類すると食品が最も多く、その中では銘菓などの菓子がトップで、海産物と農産物・酒が続いている。また、非食品では陶器、アクセサリ、工芸品などさまざまにこの分野と特定できるような集中は見られなかった。

これらの中で、複数の人から支持があった主な商品を列挙すると下記のとおりである。

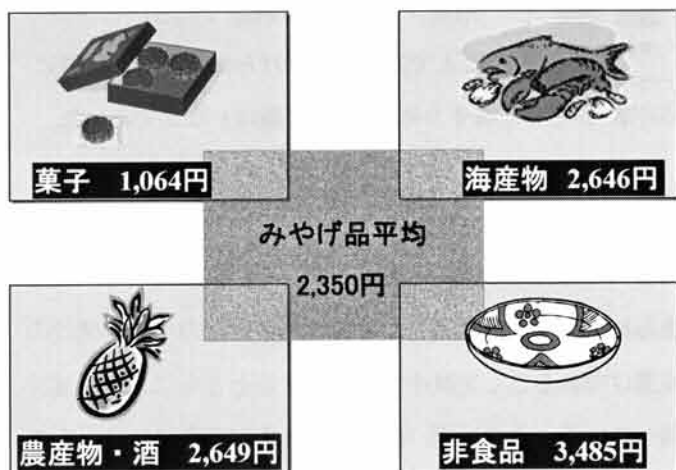
(菓子)

六花亭の菓子	塩羊羹
じゃがポックル	ずんだもち
まるせいバターサンド	
ロイズチョコ	

(海産・農産物)

千枚漬け	笹かまぼこ
柿の葉すし	マンゴー

2 平均単価は 2,350 円、菓子が安く非食品が高い



これらのみやげ品の平均単価は左図のようになった。もとよりこれらは貰った商品も含まれるため、詳細な数字ではないが一応の目安として参考になるものと思われる。

全みやげ品の平均値では 2,350 円、最も多かった菓子では 1,064 円で農・海産物はこれらよりやや高く 2,640 円台となった。

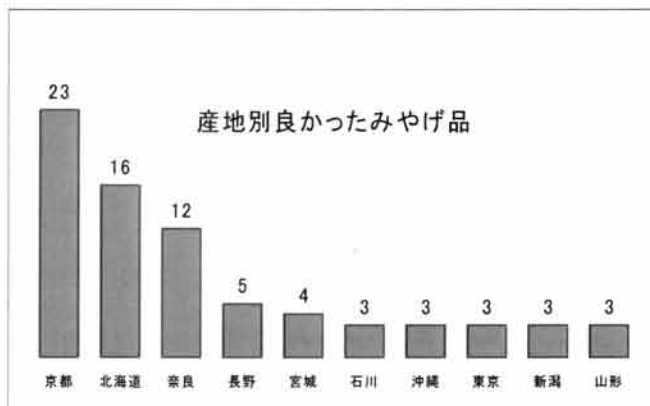
3 評価基準は「美味しさ」と「地域性」



何故、これらの商品が良かったのかその理由を聞いたところ、その理由はさまざまだが、最も多かったのが食品では「美味しさ」で、食品を回答した 66%の人が理由として挙げている。その他では、地域らしさや見栄えなどであり、とくに地域らしさは非食品ではトップに挙げられており、みやげ品のその地域ならではの選択基準となっている。

また、非食品の方が理由はさまざまに多様化された一端を物語っている。

4 良かったみやげ品地域 NO1 は「京都」



良かったみやげ品全 106 品を地域別に集計すると最も多くリストアップされたのはわが国の代表的な観光地「京都」であった。23 品目でこれは 22%にあたる。次いで、観光地として人気が高い北海道で奈良が 3 番目にランクされた。

奈良ファンによる回答であるから当然のことであるが、挙げられた品目は多岐に

わたり、「墨・硯」「奈良晒」「仏像画」「柿の葉寿司」「三輪そうめん」「奈良漬け」などであった。

6. 奈良のみやげ品に対する自由意見

奈良のみやげ品や観光全般についての自由に意見は下記のとおりであった。全体的には、具体的な開発のヒントになるような提案は見られなかった。意見として最も多かったのが奈良漬けの評価で、奈良にとっての中心商品は奈良漬けであることを改めて再認識するとともに、奈良漬けに並ぶみやげ品が育ってないことを物語っている。その反面、少数ではあるが奈良には良いものがあるという意見が幅広く出ていることと、みやげ品そのものではないが、店の閉店が早すぎるという意見も見逃せない指摘であった。

- やっぱり奈良漬け以外にない 8 件
- 奈良らしいものがない 7 件
- 気軽に買える菓子などがない 6 件
- 奈良の店の閉店が早過ぎる 4 件
- 奈良漬けやお菓子など良いものがいっぱいある 3 件
- 奈良漬けは好き嫌いがある。万民受けする食べ物が欲しい 3 件
- 奈良らしい良いものがある 3 件
- 小さくて可愛い鹿の置物が欲しい 2 件
- 京都と違いをだせば良いのでは? 2 件
- ビニールの鹿などはいらない 2 件
- 一刀彫はよいが高すぎる 2 件
- 一刀彫など工芸品の品揃えが欲しい 2 件
- 他の観光地でも手に入るものが多い 2 件
- もっと美味しい食べ物を作って欲しい 2 件

- 菓子類はもっと工夫が欲しい
- 筆墨などはみやげ品として評価されている
- 京都や東京に学びいい商品を開発して欲しい
- 定番品など個性がない
- 春日大社の鹿おみくじはおもしろい
- 大宇陀の5つの味のお菓子が美味しい
- 「奈良チョコクッキー」は地元らしく観光客に受けている。
- 葛菓子などは工夫が見られた
- 正倉院の展示品をモチーフにした柄は地域性が出ていてよい。
- 奈良らしい美味しい食べ物を
- 素朴な山芋の食品がよい
- 仏像ものが欲しい
- 工芸品に一目見て欲しいものが少なくなっている
- 吉野葛を使った菓子、干し柿を使った和菓子がいい
- 柿の葉寿司がおいしい